

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現3年生	国語			数学			英語		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)
	65.8	56.9	66.0	55.4	36.9	42.0	48.3	47.3	32.0
	(0.95)	(1.01)	(0.97)	(1.07)	(0.92)	(0.89)	(0.88)	(0.86)	(0.82)
R5 正答率の全国比			0.95		0.82		0.70		

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和5年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 学習状況調査【3教科共通】に読み取れる実態
 - ・ 全国や県と比べると、3教科とも平均正答率は低い。
 - ・ 問題形式では、記述問題での正答率が低い傾向にある。
 - ・ 無回答率が、全国や県と比べると低い。あきらめずに自分が知っている知識でなんとか解いていこうとする態度が身についている。
- 学習状況調査【国語】から読み取れる実態
 - ・ 学習指導の領域の我が国の言語文化に関する事項、情報の扱い方に関する事項の正答率が高く、佐賀県と全国の平均正答率を上回っている。
 - ・ 学習指導の領域の言葉の特徴や使い方に関する事項、書くことの正答率が低く、佐賀県と全国の平均正答率を下回っている。
- 学習状況調査【数学】から読み取れる実態
 - ・ 学習指導の領域のすべての項目において、正答率が低く、佐賀県と全国の平均正答率を下回っている。特に、データの活用の正答率が低い。
- 学習状況調査【英語】から読み取れる実態
 - ・ 学習指導の領域のすべての項目において、正答率が低く、佐賀県と全国の平均正答率を下回っている。特に、データの活用の正答率が低い。
 - ・ 問題形式の記述式の正答率が低い。

●意識調査から読み取れる実態

- ・授業でICT機器をよく使って学習した生徒の割合が高く、自分の考えをまとめ、発表する場面で積極的に活用している。
- ・地域の行事に参加している生徒の割合が高く、佐賀県と全国の割合を上回っている。
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと考える生徒の割合が高く、佐賀県と全国の割合を上回っている。
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合が低く、佐賀県と全国の割合を下回っている。
- ・授業において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している生徒の割合が低く、佐賀県と全国の割合を下回っている。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・授業において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する機会を増やす。
- ・電子黒板にモデルやリード文を示し、書くことが苦手な生徒にも、取り組もうとする意欲や書けたという成功体験をもたせる。
- ・定期テストや課題テスト等で記述式の問題を増やす。
- ・学級活動や道徳の授業では、自己肯定感を高める教材を計画的に取り扱っていく。
- ・感染症対策を十分にとりながら、話し合い活動など意見交流の機会を増やす。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・810大作戦(家庭学習強化の取り組み)、タブレットドリルを活用することで、家庭学習の充実、基礎学力の定着につなげる。
- ・学級活動で話し合い活動や、レクリエーションの企画などを通して、分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表できる場を増やす。
- ・行事等の活動方法を工夫して、コミュニケーション能力を高める手立てをとる。
- ・学校生活全般の中で、生徒自身が自ら選択する自己決定の場面を意識的に設定する。
- ・生徒会活動において、生徒自身による企画、立案の行事を増やす。